

研究分野のキーワード：比較教育学，キャリア教育，特別活動，職業指導，労働教育

研究紹介

私の専門は「比較教育学」という分野で、簡単にいうと外国の教育の歴史・制度・実態について明らかにし、日本と比較してみるという研究です。「海外の教育なんて知って何の意味があるの?」と思う方もいらっしゃるかもしれませんがね。確かに、他国でうまくいった教育のしくみや実践を日本にそのままもってくる、というわけにはいきません。背景となる社会や文化は国によって大きく異なっているからです。

しかし、外国と比較することで日本の教育を相対化してみることは、新たな視野と可能性をひらくことにつながります。例えば、私は主にフランスをフィールドに研究を進めていますが、フランスでは学校教育は分業制のもとで営まれます。教員の仕事は主に授業(教科指導)で、生徒指導や進路指導などはそれぞれ別に配置された専門家が中心となって行います。日本では、生徒指導も進路指導も教員同士がお互いに協力しながら実施しますよね。それは日本にとっての「常識」ですが、世界的にみるとそうともいえないのです。「教師の本当の役割とは何だろうか」「学校外部の専門人材をどのように活用すればよいだろうか」、こうした問題を探求するとき、きっと海外との比較が役立つはずですよ。

また、日本が将来的に直面するかもしれない教育問題を考える上でも比較研究は有効です。愛知県は日本語指導を必要とする子どもが日本一多い県として知られていますが、日本全体で見れば外国人登録者の総人口に占める割合はまだ2%足らず。しかし、フランスでは10%を超える移民がおり、社会的排除が深刻な課題となっています。少子化・グローバル化が進行する中、今後日本にも色々な国籍の人が入ってくると予想されます。彼ら・彼女らの人生を教育によってどう支えていくか、フランスでの取り組みはきっと参考になるはずですよ。

以上、比較研究の意義についてお話してきましたが、私が現在テーマとしているのは「キャリア教育」と「特別活動」の日仏比較研究です。キャリア教育とは、社会的・職業的自立に必要な知識・能力・態度を学校教育全体で培っていく試みです。フランスでは、キャリア教育が国民の権利として定められており、それを保障するために多くの公的機関が存在します。どちらかといえば民間や地域の力を活用する日本型モデルとは異なっており、多くの示唆が得られます。また、学級活動・生徒会活動・学校行事などの特別活動(教科外活動)に関しては、日本は世界の中でもっとも盛んな国の1つです。どちらかといえば教科指導に重きをおくフランスと比べてみることは、日本の教育のよさを再発見することにつながります。

このように、「比較」というのは、これまで自分が当たり前に受けてきた教育を再考するための手段でもあります。高校生のみなさんも異国への扉を開き、日本の教育の現状と方向性について、多角的に考えてみませんか？